

【令和5年度 事業報告 重点項目】

令和5年度は、組織理念に基づいて以下の重点目標を設定し、達成に向けた取り組みを行いました。

未達成項目については、令和6年度事業計画に反映し、引き続き、子どもたちにとってより良い組織運営へとつなげてまいり所存です。

Value.1（基本方針）利用者の尊重

目標内容（色付き） / 達成状況・実施報告（色なし）	評価尺度	担当者	優先度
<子どもの権利擁護> ・子どもの権利に対する、職員の意識向上の取り組みを検討の上、実施	・第三者評価機関利用者アンケート設問 9:70%以上（※1）	GH支援員 ケアワーカー プロジェクト	高
○達成状況： 達成 評価尺度：目標70%以上 → 実際76.3%（2022年度比8Pアップ） ○実施報告：全職員を対象に人権チェックを四半期ごとに行い（必要に応じて面談を実施）、人権意識の向上を図った。 ・施設長と管理職による職員面談（年2回実施）時に権利擁護についての聞き取りを行った。 ・新たに、施設長による全児童を対象とした個別面談を夏休み中に実施した。 ・苦情解決の取り組みとして、第三者委員への即時報告と助言（必要に応じて介入）を得ながら進めた。			
<合意形成> ・子どもと職員とで合意形成された子ども向け自立支援計画書の作成と運用	・運用を開始 ・第三者評価機関職員アンケート設問6-3-2:2:15%アップ（※2）	プロジェクト	中
○達成状況： 達成 評価尺度：目標15%アップ → 実際44.5%アップ（93.5%に） ○実施報告：2022年度リーダープロジェクトで検討がなされた、自立支援計画書のマニュアルとフォーマット改定を基に実際に運用を行った。 ・具体的には、子どもの意向を十分に確認し、職員と子どもとで合意した支援計画書を新たに作成し、子ども自身がいつでも確認できるようにした。			
<BCPの整備と訓練> ・各種BCPの整備と実効性のある訓練の実施	・第三者評価機関職員アンケート設問4-1-1-4②5%アップ（※3）	防災委員会	中
○達成状況： 未達 評価尺度：目標5%アップ → 実際6.2%ダウン（62.9%に） ○中期修正：特に非常勤職員への説明等が不十分であった。後期計画として外部研修報告会の機会にBCPの説明と共に、職員一人ひとりが実際の動きをイメージできるように機会をもつこととする。評価尺度の目標値は変えずに、評価方法を外部研修報告会の事後アンケートに変更。 ・ 未達 評価尺度：目標5%アップ → 未回答者が大半を占め、現状を反映したデータは取れず。 ○実施報告：各種BCPについて、職員が自身の役割を理解できるよう、説明と資料の配布を行った（事業計画）。 ・訓練方法については防災委員会内で検討を行い、どこのグループでも実効性のある訓練が行えるように配慮した。 ・（中期計画により）外部研修報告会にて防災委員長がBCPの説明や質疑応答等を改めて行った。事後アンケートでは研修全体のアンケートであったことから、未回答者が多く（半数以上）、現状を反映したデータは取れず。			
<ICTリテラシーの向上> ・ICT化の推進とセキュリティ向上のための取り組みとして、子ども向けにICTリテラシー教育を行う	・リスクマネジメント委員会主催のICTリテラシー教室を開催する	リスクマネジメント委員会	低
○達成状況： 未達 評価尺度：リスクマネジメント委員会主催のICTリテラシー教室の開催には至らなかった。 ○実施報告：リスクマネジメント委員会内での検討を試みたが、実際の事故やヒヤリハットの検証・予防のための取り組み等に時間を要し、十分な検討ができず、ICTリテラシー教室の開催にも至らなかった。今後ますます重要となる分野であるため、実現可能な具体的な取組目標を立て、実施に繋げていきたい。			

※1 子どもの気持ちを受けとめ、尊重した対応がされているか

※2 計画を子どもにわかりやすく説明し、同意を得るようにしている

※3 私は、リスクへの対策や計画について理解できており、自分の役割に応じて対応できる

Value.2（基本方針）自立支援

目標内容（色付き） / 達成状況・実施報告（色なし）	評価尺度	担当者	優先度
<自立支援の強化> ・自立支援委員会の立ち上げによる自立支援の質の向上と標準化の促進 <生い立ちの整理> ・施設内における生い立ちの整理のあり方の検討	・委員会の立ち上げと委員会の定期開催（1/3Mを目安）	自立支援委員会	高
○達成状況： 達成 評価尺度：委員会立ち上げと四半期毎開催の実現。 ○実施報告：委員会を立ち上げ、四半期ごとに委員会を開催することができた。 ・生い立ちの整理のあり方を検討するため、委員の代表者が外部研修で議論の土台となる学びを得て、委員会内で周知を行った。 ・委員会では自立支援の施設内標準化（均てん化）が図れるよう、情報の共有や自立支援・アフターケア等についての考え方について議論を行った。			
<性に関する職員の意識の向上> ・養育ハンドブックへの反映 ・マニュアル集のアップグレード	・養育ハンドブックやマニュアル集への反映を通して、組織の学びとしているか	暮らしと性の委員会	中
○達成状況： 未達 養育ハンドブックやマニュアル集への反映するまでは到達できなかった。 ○実施報告：暮らしと性の委員会内でマニュアル担当者をつくり、マニュアル作成に取り組んでいるが完成までは至っていない。 ・今年度は性的事故があったため、来年度も引き続き、生活の中に落としこめるような内容を委員会の中で話し合いを行う方針。			
<新たな連絡ツールの導入> ・LINE公式アカウントの利用による退所者との繋がりの機会の確保	・退所者にとって繋がりがやすく、また有益な情報等が配信される	自立支援担当職員	低
○達成状況： 未達 評価尺度：LINE公式アカウントの立ち上げが完了したが、このアカウントを通して有益な情報等を配信しているとはいえない。 ○実施報告：LINE公式アカウントを立ち上げることができた。 ・自立支援委員会の中でLINEアカウントの配信内容、スケジュール等について検討を行った。その他の検討事項については、事前に決定すべき枠組の議論が十分にできず、今年度中の実施には至らなかった。			



わたしらしさ、あなたらしさを大切に

Value.3（基本方針）安心・安全な生活

目標内容（色付き） / 達成状況・実施報告（色なし）	評価尺度	担当者	優先度
<笑顔のある暮らしを> ・各グループのあたたかな雰囲気づくり、楽しい雰囲気づくりを促進 ・現場へのバックアップ機能の強化（専門性の向上・連携強化）	・GH支援員、サポーター、栄養士等が年間を通して各グループを巡回する ・第三者評価機関利用者アンケート設問①：10P↑（※1）	ケアワーカー GH支援員 サポーター 栄養士 等	高
○達成状況： 達成 評価尺度：目標10Pアップ → 実際11.4Pアップ（43.9%） ○実施報告：GH支援員、サポーター、栄養士等が年間を通して各グループを巡回した。 ・コロナウイルス対策の緩和により、食事中等のバーテーションは撤去し、食事中の会話が弾むことが増えた。 ・栄養士より全体に季節の料理を提案したり、陶器などの温かみのある食器の用意を促した。 ・新任の調理技術の取得のため、栄養士が段階的にOJTを行った。			
<防犯対策の強化> ・本体施設のオートロックの検討 ・110番通報装置の設置の検討	・オートロック化と通報装置導入の検討がなされ、2024年度設置に向けた申請を行う	管理職	中
○達成状況： 達成 評価尺度：オートロック化と通報装置導入済。 ○実施報告：運営会議内での検討により、オートロック化については早期実現に向けて動くこと、通報装置については新規導入ではなく、既存設備の有効活用の方針を確認。 ・オートロック化については2024年度の設置予定であったが、2023年度中の導入を見込んでいる。			
<服薬管理の徹底> ・服薬管理方法の施設内標準化の促進と、運用しながらのチェック機能の強化	・服薬管理に関する事故の防止	看護師	中
○達成状況： 未達 評価尺度：事故の防止とまではいえない状況。 ○実施報告：これまでのインシデントを踏まえ、看護師を中心にマニュアルの改訂、服薬チェックリストの活用、服薬ボックスの導入等、さまざまな取り組みを行った。 ・取り組みにあたり、職員会議やグループ会議等での説明・意見交換等を行い、マニュアル通りの運用ができるよう働きかけを行った。 ・マニュアルの運用状況や認識には職員間・グループ間に格差が生じており、また、それらを修正することはできず、軽微なインシデントのみならず、大きな事故も生じた。 ・取り組みの結果として、組織全体の服薬に対する意識を高めることには繋がっている。更なる取り組みを行いたい。			
<修繕> ・新小岩ホームの外壁塗装を実施	・外壁塗装の実施	管理職	低
○達成状況： 方針変更 評価尺度：外壁塗装は2024年度に持ち越し ○実施報告：隣人宅への落ち葉等でご迷惑をおかけしないよう樹木伐採工事を優先。加えて、本体施設のオートロック化を早期に実現すること、そして、葛飾区からのショートステイ定員増の依頼をお受けすることになったことで、急速、拡張工事を今年度中に行う必要があることから、新小岩ホームの外壁塗装の予算をそれらに回す方針に変更。			

※1 食事の時間が楽しいひと時になっているか

Value.4（基本方針）人材育成

目標内容（色付き） / 達成状況・実施報告（色なし）	評価尺度	担当者	優先度
<キャリアプランの改定> ・希望の家の歴史や組織理念に基づいたキャリアプランの検討・作成	・キャリアプランの素案を作成する	プロジェクト	高
○達成状況： 達成 達成指標：キャリアプランについて検討・作成することができた。 ○実施報告：組織理念に紐づいた形で、目安給与等も連動したキャリアプランを作成した。 ・併せて、キャリアマップも作成し、どのようなキャリアの道があるのかを具体的にイメージできるようにした。 ・2023年度中に運営会議、リーダー会議、職員会議とそれぞれ意見の集約・修正が完了次第、2024年度の導入を予定。			
<人材確保> ・全グループ6名体制に向けた採用活動と、6名体制を前提としたチーム運営の在り方の検討	・プロジェクトでの検討と成果物の共有 ・質の高い必要人員の確保	人材確保担当者 プロジェクト	中
○達成状況： 未達 達成指標：想定採用人数には達しなかった。 ○実施報告：人材確保の困難さが予想されたため、例年より早く求職者向けの講座、施設説明会等を開催した。 ・講座については例年通りの回数（3日程）であったが、施設説明会・採用試験に関しては毎月開催とした。 ・施設説明会では現場のケアワーカーにも参加してもらい、現場の生の声を届ける工夫を行った。 ・近年は見送っていた福祉業界の就職フェアにも出展し、求職者の確保に努めた。 ・取り組みの結果として、就職希望者は昨年に近い申し込みがあったが、採用に繋がる人材は限られた。 ・6名体制でチーム運営をしたリーダー職員を中心にプロジェクト化し、丁寧な養育と職員の休息・休暇のバランスとを模索し、検討した。 ・6名体制により、実際に超過勤務の軽減、有給休暇取得率の向上、他グループへのサポート、丁寧な人材育成等が可能となった。 ・それらの取り組み内容と工夫については、次年度に生かせるよう全職員に周知した。（見込み）			
<プロジェクトの推進> ・プロジェクトの推進等で、タスク管理や特定の職員とのやり取りが必要となることから、アプリやツールの導入を検討	・検討が行われ、導入にあたってはノンプロフィット版の利用可能性等もあたる	プロジェクト	中
○達成状況： 達成 達成指標：ノンプロフィット版のTeamsを導入し、無償活用している。 ○実施報告：アプリやツールの検討が行われ、ノンプロフィット版のTeamsを導入することになった。 ・利用については一部の職員（10アカウント）に限られていること、また、利用目的は情報共有やデータのシェア等に限られているため、より効果的・効率的な活用等を検討していく必要がある。			
<交換研修の実施> ・コロナウイルスにより見送っていた施設内での交換研修の再開を見込み、その在り方などを検討の上で実施	・施設内交換研修フォーマット類の改定 ・施設内交換研修の実施	人材育成委員会	低
○達成状況： 達成 達成指標：施設内交換研修のあり方を委員会内で議論し、フォーマット類の改定、施設内交換研修を実施した。 ○実施報告：施設内交換研修のあり方の検討に時間を要し、限られた実施期間・内容・研修者となったが、学びを得ることは繋がった。 ・2024年度については検討結果を十分に反映した研修内容とし、新たなフォーマットについても活用していく予定。			



わたしらしさ、あなたらしさを大切に

目標内容（色付き） / 達成状況・実施報告（色なし）	評価尺度	担当者	優先度
<働き方改革> ・有休休暇取得率の段階的な向上を図る	・2023年度の全職員への有休付与総数に対して取得率を58.3%以上に※1	管理職	低
○達成状況： 達成 達成指標：目標58.3% → 実際62.3% ○実施報告：グループ毎に人員体制の差があることや状況の違いもあるため、全体での取得計画等は立てられなかったが、有給休暇の計画的な取得について毎月の職員会議でアナウンスをした。 ・身も心も疲弊しやすい仕事であるため、オンとオフの切り替えがしやすい働き方や、長期休暇の取得等を更に推進していきたい。その方策の一つとして職員配置を増やしているが、若い職員の割合が高いため、その恩恵が得られるのは今後を見込む。			

※1 令和3年度全業種平均有休消化率＝58.3%（厚生労働省調査）

Value.5（基本方針）信頼される組織運営

目標内容（色付き） / 達成状況・実施報告（色なし）	評価尺度	担当者	優先度
<苦情解決の仕組みの整理> ・苦情解決のあり方について整理を行う（利用者家族や地域住民、関係機関等への苦情解決の仕組みの説明と結果の公表等）	・苦情解決委員との協議を行い、苦情解決のあり方について合意形成する	苦情解決責任者 受付担当者	高
○達成状況： 達成 評価尺度：苦情解決委員との協議を行い、苦情解決のあり方について合意をはかった。 ○実施報告：年度当初の苦情解決委員との懇談会にて、苦情解決のあり方について意見交換し、苦情が発生した場合の流れ等について確認を行った。 ・利用者以外（利用者家族や地域住民、関係機関等への苦情解決の仕組みの説明と結果の公表）への説明については施設内の掲示物等で周知を図った。 ・結果の公表についてはウェブサイトでの公表を検討しているが、利用者間の苦情の公表については懐疑的な意見もあるため次年度への持ち越しの議題とした。			
<広報力の強化> ・広報担当者の配置（学生アルバイトを想定） ・LINEの認証アカウントを活用した配信活動の開始	・広報担当者の配置 ・新たなツールでの配信の実施	広報委員会 広報担当者	中
○達成状況： 未達 評価尺度：広報担当者の未配置、LINEを用いた配信活動の未実施。 ○実施報告：広報担当候補者をアルバイト雇用したが、現場へのサポートの役割が急務となり、広報活動業務を担ってもらうことができなかった。 ・LINEの認証アカウントを開設したが、有効な活用方法を検討することができなかった。			
<ファンディングの強化> ・マンスリーサポーターの増加 ・支援者管理とコミュニケーション方法・内容の整理	・2022年比で2倍のサポーターの確保 ・コミュニケーション方法のマニュアル化と共有	管理職 広報担当者	低
○達成状況： 未達 評価尺度：2022年比2倍のサポーター数には至らず。 コングラントを通したマンスリーサポーター数とその額：2022年度末7名（毎月28,000円）/2023年度末9名（毎月40,000円） コングラントを通した単発サポーター数とその総額：2022年度10名（247,375円）/2023年度10名（507,000円） Amazon欲しいものリストを通した寄付件数とその総額：2022年度310件（1,509,883円相当）/2023年度340件（1,524,612円相当） ○実施報告：サポーターに対しては年2回の広報誌の送付と使途報告を行った。 ・Amazon欲しいものリストを通した寄付者に対しては住所非公開となったことでコミュニケーションが取れなくなったが、SNS等を通して寄贈報告とお礼をお伝えした。 ・今年度より、マンスリーサポーター等の継続寄付者に対しては年末に感謝状をお送りした。			

※1 コングラント：使用している寄付決済・管理システムの名称

Value.6（基本方針）地域との連携

目標内容（色付き） / 達成状況・実施報告（色なし）	評価尺度	担当者	優先度
<地域支援の展開> ・地域支援の新たな取組みを開始するためのニーズ把握と準備（在宅での養育継続のための取組みを想定）	・新設の葛飾区児童相談所との連携を強化し、地域に求められる支援の可能性を把握する	管理職	高
○達成状況： 達成 評価尺度：葛飾児相との連携強化と地域のニーズに即した地域支援のありかたを検討した。 ○実施報告：葛飾区児童相談所開設に伴い、開設前から情報交換や協議等を行った。 ・葛飾区児童相談所開設に伴う一時保護所の給食業者選定委員会に属し、より良い業者選定に貢献できるよう努めた。 ・葛飾区子ども・若者支援協議会、及び葛飾区子ども子育て委員、要保護児童対策協議会（代表者会）に属し、子どもや子育て家庭を中心とした区民の利益の保護に資するよう努めた。 ・希望する職員全員で葛飾区児童相談所の見学を行った。 ・区民のショートステイへのニーズの高まりから、受け入れ定員を1名増やすことで葛飾区と合意した。			
<地域支援の充実> ・2年目を迎える「親子ふれあいサロンきぼう」の内容をよりニーズに合った内容にブラッシュアップする	・利用者数の増加（2022年度比）	ホームスタート担当者	中
○達成状況： 達成 評価尺度：利用者数が著しく増加した（2022年度：128家庭 / 2023年度：258家庭）。 ○実施報告：参加者の満足度は高いことから、内容については大きく変更せず、周知活動と更に居心地の良い空間づくりに努めた。 ・ウェブサイトのうち新たに「地域の子育て支援」のページを開設し、区民への更なる周知を図った。 ・SNSやウェブサイトの中で定期的に発信することに加え、他の支援団体のチラシ・SNSにも掲載・発信いただいた。 ・居心地の良い空間となるよう、授乳スペースを設けたり、安全に最大限配慮し、時にはホームスタート事業のホームビジターの協力も得たり、ながら活動を行った。 ・参加者がホームスタート事業の利用開始をするケースもあり、より地域のニーズに応えられるような取り組みとなった。また、希望の家への関心を持つきっかけとなり、実際にご支援をいただくなど良い循環となった。			
<地域との連携強化> ・葛飾区子育てフェスタ共催者としてのあり方の検討と参画	・検討する場を設定した上で方針立てし、実行委員会にも積極的に参画する	管理職 ホームスタート担当者	低
○達成状況： 未達 評価尺度：実行委員会に積極的に参画したが、独自の取り組みなどは行わず。 ○実施報告：実行委員会に所属し、フェスタ開催に貢献できるよう努めた。 ・希望の家としてもホームスタート事業の広報活動や音楽療法士による親子音楽遊び等を開催し、好評であった。 ・ホームビジターの協力を得ながら、地域に根差した施設として地域住民との交流の機会となった。 ・共催法人としてできることは次年度以降も検討していきたい。			



わたしらしさ、あなたらしさを大切に

重点目標の達成状況一覧

優先度	目標数	達成数	達成割合
高	6	6	100%
中	9	4	約44%
低	6	2	約33%
総数	21	12	約57%

※年度途中での方針変更項目は除外



わたしらしさ、あなたらしさを大切に